第４回　揖斐川町教育委員会定例会

揖斐川町教科用図書の採択に係る議事録（議事要旨）

１　日時：令和５年７月１９日（水）９時００分～９時５５分

２　場　所：揖斐川町役場　３階　研修室

３　出席者　教 育 長　　野原　　靖
　　教育委員　　教育長職務代理　川瀬　善忠
　　教育委員　　太宰　不二夫、折戸　克明
　　教育部局　　部長　河瀬　浩治
　　学校教育課　　課長　富山　哲成
　　社会教育課　　主幹　松久　秀紀
　　学校教育課　　課長補佐　窪田　清文

４．議事
　　議第６号　令和６年度使用小学校用教科用図書及び中学校用教科用図書の
　　採択議決について

〇教育長より説明

・来年度使用する小学校の教科用図書は、採択替えの年であり採択を行う必要がある。中学校は採択替えの年ではなく令和５年度と同様の発行社での採択となる。
・先日行われた西濃地区採択協議会では、複数の調査項目と着眼点に基づいて調査研究が行われた。
・西濃地区採択協議会で検討した上で採択案として、全１３種目のうち、書写と生活科と道徳の３種目に関して、現行と採択社を変える原案である。選定の理由について、前回と変わったこの３種目を中心に説明をさせていただく。
・書写について、東京書籍と教育出版と光村図書の３社が候補になっていたが、協議会で採択案としたのは光村図書である。西濃地区の国語科では「児童が見通しをもって学習を進めていくことで、課題解決の過程を主体的に進めていけるようにする」ことを大切にしている。光村図書に関しては、主体的に取り組める言語活動が多く提示されていて、学習の前後で自己変容を実感し、書写の学びの中で達成感を感じられるように、学習内容が焦点化されている点が評価された。
・生活科について、現在は東京書籍を採択しているが、来年度は啓林館を採択案としている。西濃地区では、どの教科でも「指導と評価の一体化」ということを大事にしている。本書については、単元末に記されている「振り返りの視点」が学習指導要領等で示されている３つの資質能力の柱で整備されている。その柱に基づいて児童が自己評価できるようになっており、児童自身が学習を振り返りながら主体的に学びを進めていくことができる点が評価された。
・道徳について、現行では光文図書が採択されている。全６社の教科用図書の中で、来年度は光村図書が採択案として示された。西濃地区の道徳教育では、ＩＣＴの活用が

一層求められている。光村図書の教科用図書は、デジタルコンテンツが非常に充実しており、音声、画像、動画を用いて学びを広げたり深めたりする工夫がなされている点が評価された。
・その他の種目についても、基本的には調査項目と着眼点の視点から、そして西濃地区対策協議会として、地区の学習指導の特徴や課題点を踏まえた上で、最も秀でていると考えられたものが採択案として示されている。後ろの長机に並べてある来年度の教科用図書をご覧になりながら確認し、ご意見を伺いたい。

〇協議
＜委員＞
・教科用図書のサイズについてはどうか。
＜学校教育課長＞
・印刷製本等に関する比較はされている。Ａ４のものもある。重さや大きさを加味しないわけではないが、内容を重視して選んでいる。中にはＡＢ版というものもある。
・大きくて不便であれば問題であるが、基本的にＡ４以内であればよいと考えている。
＜委員＞
・今までのものから変更された種目については選定理由が明確に示されている。特に道徳はＩＣＴの活用ということがよいと思う。光村図書と日本文教出版の教科用図書はどうであったか。
・説明にあったデジタルコンテンツ（動画、音声、画像）は、ＣＤ等で添付されているのか。
＜教育長＞
・デジタルコンテンツは、ＣＤではなくＱＲコードを読み取ってタブレットで見る形式である。道徳は６社の教科用図書を検討し、その中から光村図書と日本文教出版の２社に絞った。もちろん他社のものも全部見て検討し、点数を付けた結果である。なお、今はほとんどの業者のものにＱＲコードが添付されている。
＜委員＞
・ＱＲコード等を学校の授業の中で使う機会も増えているが、そのような新しい視点でこの２社が特に勝っているということでよいか。
＜学校教育課長＞
・デジタルコンテンツは他社のものにも付いていると思うが、特に光村図書については、音声、画像、動画という３種類のデジタルコンテンツがあり、また各学年に応じた役割演技の進め方や思考ツールの使い方、というような具体的な学習の手引きが示されていて特に内容が充実していた点が評価された。
＜教育委員＞
・６年生道徳の光村図書を見ると、その話し合いの進め方とか、本当に細かく書いてある。面白いと思う。どんなふうに人の心を受け止めていこうというところまで丁寧に書いてある。
＜教育委員＞
・道徳で、光村図書は「ハンセン病」や「ダウン症」のことが内容に含まれていること

がよいと思う。道徳の中で取り扱ってほしい学習内容である。

＜教育長＞

・ほとんどの業者がＱＲコードを添付している。他の教科もそうだが、ＱＲコードによるデジタルコンテンツの量や質も選考の基準にしている。あとは、教師がそれをどのように有効活用するかを期待している

＜教育委員＞

・大日本図書は令和４年に教科書採択に関わる不正問題があったがどうか。

＜教育長＞

・協議会の中で、小学校では基本的に話題にならなかった。一方で、中学校では話題となった。しかし、中学校は現在採択中であり、採択替えの年ではないため、途中で代えるのではなく採択を継続するということになった。

＜教育委員＞

・次回からは中学校、特に他県では受け入れないという話を聞いているがどうか。

＜教育長＞

・これまで、算数・数学の教科用図書は岐阜地区、西濃地区は大日本図書の採択が多い。一方で、飛騨地区は啓林館を使うことが多い傾向がある。東京書籍を採択する学校も増えていると聞いている。

・協議会で書写に関して「これまで書写は東京書籍を使っていたが、光村図書に代わることに問題はないか」という質問はあったが、それはやはり中身を重視して決めたという回答をしたということである。

＜教育委員＞

・西濃地域とか岐阜県というような郷土教材の取り扱いはどうなっているか。例えば海津の輪中のことなどを取り上げている教科用図書はあるか。

＜教育長＞

・それは協議会でも話題になった。特に、社会の教科用図書の選定では郷土教材の取り扱いについて加味してある。社会は東京書籍、教育出版、日本文教出版の３社の中で、東京書籍だと、海津、中津川、下呂、白川といった県内の様子が記載されている。教育出版の場合も、岐阜県に関する資料が掲載されている。日本文教出版は海津市について記載されている。その中で、トータルで考えて東京書籍が選定された。

＜教育委員＞

・西濃地域のことだけで選ぶことはできないが、そういう着眼点も大事である。

※　協議の結果、採択原案のとおり決定した。